慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	資料紹介 : 財団法人斯道文庫蔵書の寄託寄贈に関する資料 : 阿部隆一書簡を中心に
Sub Title	materials relating to deposition and donation of an incorporated foundation Shido Bunko Institute's collections : focused on Ryuichi Abe's letters
Author	川上, 新一郎(Kawakami, Shinichiro)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2015
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.50 (2015.) ,p.15- 34
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	山本英史前文庫長・川上新一郎教授退職記念
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20150000-0015

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資料紹介　財団法人斯道文庫蔵書の寄託寄贈に関する資料

―阿部隆一書簡を中心に―

川上　新一郎

まえがき

本稿は財団法人斯道文庫蔵書の寄託、寄贈に関する資料を紹介するものである。財団法人斯道文庫は昭和二十年六月福岡空襲に被災して研究所としての活動を停止せざるをえなくなったが、幸いにも蔵書のほとんどは無事であった。その蔵書は昭和二十六年九州大学に寄託され、さらに昭和三十三年慶應義塾大学に寄贈されることになったが、その経緯については、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫編『斯道文庫三十年略史』（平2刊）に見える通りである。ところで『三十年略史』編纂の際、麻生セメント株式会社（当時）より頂いてきた段ボール一箱分の資料があった。その中には麻生セメント株式会社に保管されていた財団法人斯道文庫関係の種々の資料が含まれていた。『三十年略史』ではその中からいくつかの資料を翻字して収めている。例えば、九州大学及び慶應義塾への寄託、寄贈に関する契約書の写しである。慶應義塾に関して言えば、それらの契約書の正本は当時義塾側には見当らず、段ボール中の写しによって翻字し収めたのである。その他、終戦直後に財団法人斯道文庫がGHQに提出した「言論報道団体追放に関する反証陳述書」（英文、邦文）の写しも含まれていた。これも『三十年略史』に翻字されている。さらに段ボール中には、当時寄託、寄贈の任に当り、

後に斯道文庫長をつとめられた阿部隆一博士（一九一七―八三、文庫長在任は一九七八―八二）が麻生鉱業株式会社（当時）の担当者に送った書簡とそれに対する担当者の返信（写し）やメモも含まれていた。これらについては川上が翻字原稿を用意したのであるが、結局収載を見送った経緯がある。

今それを掲げるのは、今回改めて見直すと、斯道文庫の歴史を考える上で興味深い資料であり、また、一部資料については現在原本が見当らないので、この機会に公刊しておく方がよいと思ったからである。内容については、解説を必要とするところもあるが、今特に行わなかった。ただ、当時の阿部博士の所属経歴は記しておく方がわかりやすいので、「斯道文庫論集」第十九輯（昭58・3）所収の「阿部隆一名誉教授年譜」から、終戦前後の部分を左に摘記しておく。

昭和一六年一二月　慶應義塾大学文学部哲学科（倫理学専攻）卒業
昭和一七年四月　慶應義塾大学文学部助手
昭和二〇年四月　財団法人斯道文庫研究嘱託を兼務
昭和二一年三月　慶應義塾大学文学部助手を退職
昭和二一年四月　財団法人斯道文庫研究員
昭和二一年五月　同文庫閉鎖、麻生鉱業株式会社管理となったために、同社常勤嘱託となり、文庫時代と同一職務を担当
昭和二六年六月　麻生鉱業株式会社を退職
昭和二六年六月　慶應義塾図書館嘱託
昭和二八年一〇月　慶應義塾図書館司書
〔この間、斯道文庫蔵書の慶應義塾への寄贈にともない慶應義塾図書館斯道文庫課長に就任、川上注〕
昭和三五年一二月　慶應義塾大学斯道文庫主事
昭和三六年四月　慶應義塾大学附属研究所斯道文庫助教授兼主事

もう一点だけ説明すると、阿部博士が笹月清美氏(注)を九州における連絡先としているのは、笹月・阿部両氏がいずれも河村幹雄博士の令嬢を令室としているためである。さらに余計なことであるが、阿部博士が「間違へた」「願へれば」と書くべきところを「間違ひた」「願ひれば」と書いているのは、博士が福島出身で「い」と「え」の発音を混同されることがあり、それ

が書く際にまで及ぶことがあったためである。翻字していて懐かしく思われたので一言する。（川上新一郎記）

（注）一九〇七―五四、神宮皇學館大学教授、福岡女子大学教授を歴任。著書に『本居宣長の研究』（昭19刊、岩波書店）がある。阿部博士の義兄。後掲の第二部、慶應義塾寄贈時には故人。

〔凡例〕

一、以下は、斯道文庫蔵書の寄託、寄贈に関わる阿部隆一博士の書簡を翻字したものである。一部、麻生鉱業株式会社（当時）の担当者の書簡、メモ類も加えた。

一、仮名遣は原文のままとした。なお、阿部書簡は旧仮名遣にもかかわらず、促音の「つ」が小さく書かれているが、それには従わなかった。漢字は通行の字体に改めたが、一部旧字体、異体字を残した場合がある。

一、難読字は□とした。

一、〔　〕内は編者の注である。

一、書き誤りが疑われる箇所は傍書で（ママ）を付した。

第一部　九州大学寄託の部

一　阿部隆一書簡　浜野秀雄宛　麻生鉱業株式会社用箋　封筒欠　ペン書　〔昭和二十六年〕三月九日

御無沙汰申し上げてをります。文庫整理のその後の経過を概畧申し上げます。三月五日に目録と現物との引き合せを終了、目下紛失図書の調査並に目録の字句、冊数等の異動を訂正致してをり、此は今週中に終る豫定でございます。来週からは飯塚にあつた図書の図書記号の捺印等の最後に残つた仕事に着手する豫定で、なんとか今月中には終了したいものと急いでをります。まだ当庫に保管してあります貴重本は、九大の方で目下注文中の金庫がまだ到着しませんので運般（ママ）できずにをりますが、大体今月中旬後には金庫ができあがる筈で、廿日頃迄には九大に運べること、思ひます。貴重書を送りとゞけ次第、契約の効力を発生する文書を交換できる豫定でございます。なほ目録にあつて現物のない図書と申すのは十三冊で、此は非常に小さい薄い本なものですから紛失と申すよりは、棚のかげとか本の間にまぎれこんでをるものと思はれるので、もう少し念を入れて探せ

ばでて来るのではないかと思はれます。
九大としては貴重本がとゞいてから、今月下旬に貴重本の一部を展観、学内及び寄託者、新聞社の関係者を招待、披露をするといふ豫定の由で、いづれ期日は確定次第御通知申し上げますから、御出席の程御願申し上げます。もし社長殿が今月末飯塚へお帰りであれば、その頃御出席頂く可能性の多い日取りをきめて、御出席賜はればなほ幸と言つてをります。
文*庫の書類を幸便に託して御送り申し上げます。此は多分麻生塾の方に、保管を願ふ様になるかと思ひますが、吉鹿氏と御相談の上よろしく御取り計ひ願ひ上げます。事務上の色々の連絡事項がございますから、いづれ近日中に御邪魔申し上げ、委細御相談申し上げます。

乍簡単御報告迄　　敬具

三月九日　　阿部隆一

浜野秀雄様

侍史

＊朱鉤点を付し、上欄に鉛筆書別筆（浜野氏筆カ）で「庶務事蹟五綴、理事会決議録一、文庫会議録一、十三年度事蹟一、寄附行為外一、保存書類一」と書入

二　阿部隆一書簡　浜野秀雄宛　麻生鉱業株式会社用箋　封筒欠　ペン書〔昭和二十六年〕四月二十二日

拝啓　御多忙中御元気の御事と慶賀し奉ります。当方のその後の経過の報告並に用件のみ左に簡単に申し上げます。
一、浜野文庫の蔵書印捺印の仕事はアルバイトの学生諸君が非常によく働いてくれた為め、大に進捗、明廿三日か或は廿四日の午前中には完了する所迄になりました。此は蔵書印のみならず、浜野文庫については、ラベルの番号打ちも当方で全部致しました。たゞ一階に架蔵中の文庫本のラベルの番号打ちは九大側では今に至る迄まだ全然着手してをらず、一五日迄は会計検査で手があかなかつたせいもございますが、何回か督催、とに角明日より必ず全力をあげて着手すると九大では申してをり、明日からは主として小生もその方の督励に廻つて何とか今月中には此も完了できる様に取り計ひたいと存じます。九大の事務が口頭の如く全力をあげてやれば来週中には完成できる筈で、豫定の如く参りませう。
二、先般福岡出張所に依頼電話で申し上げました如く、貴重本

の運般(ママ)は無事すませ、翌日引き合せもすみ、小生の方からは直に書類、目録を全て九大側に廻しましたが、事務の方で引つかゝり、手間どりましたが、九大の方も目録への捺印も全部終り、何時でも書類を交換できる様に準備できました。引き渡し完了したといふ書類は、別紙同封の如きものでよいかと向うで申してをりますが、いかゞでせうか。もし訂正すべき箇所、御希望がございますなら早速御通知頂きたく存じます。もしなければ此でよいと致します。此の外に器具類（書架、カードボックス）の借用証が加はります。たゞ目下菊池総長、干潟文学部長は上京中で、今月末でなければ帰校せぬ為に、書類の実際の完成は、五月初旬になる由。但し日附は先般のお話の如く三月三十一日。

三、アルバイト学生の□(賃ヵ)金三千円恐縮ですが幸便に托し御送り頂きたく存じます。

四、次に小生の一身上の件で恐縮ですが、小生の上京については慶應の方ではこちらの仕事が完全に終了してから出京でよいといふことで、五月中途は半端になるから六月一日より出勤といふことで出で(ママ)来る方が都合よいといふことですから、五月末迄に上京できる様にし度いと豫定してをります。なほ住居の方も幸に間借りができる様な具合に数日前通知があり（ほゞ確定、向うは五月いつぱいであくらしく、詳細については目下問い合せ中）、かうなれば単身で上京する豫定をとりやめ、五月中に一家全部移転といふことにし度いと思つてをります。以上の次第で六月迄に上京すればよいとなると一ヶ月の餘裕が生じますから、当方の倉庫に保管中の河村文庫大東亜文庫の目録、河村全集刊行会の資料一切の目録等を整備して参りたいと思ひます。如上の事情ですから、甚だ勝手ですが、小生の会社の在籍を五月いつぱいとして頂けば幸甚此の上なしで、御配慮賜はりたく御願申し上げます。此等のことにつきましては御拝眉の上で委細御相談申し上げたく存じます。

五、此も御多忙中御手数を煩はし恐縮でございますが、四月末迄に市民税の申告の要ございますので、小生の廿五年度の給与総額、並に所得税の源泉徴収総額の全額を会計でお調べの上御通知賜はれば幸です。

以上のことども小生の参上の上御相談申し上ぐべき処、何分小生が離れると九大は仕事をせぬので、特に明日からはシヤニムニ彼等を督励せねは(ママ)四月中に所期の如く完了できぬ様になる懼れがございますので、已むを得ず書面を以て概畧申し上げます。御諒承の程御願申し上げます。乍末筆御自愛の程祈念し奉りま

す。取り急ぎ要件のみ

敬具

四月廿二日夜　　阿部隆一

浜野秀雄様

侍史

三　阿部隆一往復葉書往信　浜野秀雄宛　ペン書　昭和二十六年五月四日　消印「26、5、6後0―6」

（表）飯塚市立岩

麻生鉱業株式会社企画室

事務課

浜野秀雄様

福岡市地行西町三四

阿部隆一

五月四日

（裏）

前略　先般森口氏より報告のあつたことゝ存じますが、蔵書印ラベルの番号、捺印等の仕事は一切四月廿八日を以て完了仕りました。契約書の覚書の件は、全部書類一式（会社側の案で可）がとうに本部方へ提出してあるのですが、総長の帰福が延び、多分七、八日に帰る豫定といふことで、帰り次第書類に総長印を押す豫定で、以上の次第で書類が遅れてゐます。でき次第早速持参仕ります。以上の点御諒承の程御願申し上げます。委細の御報告は参上の際申し上げます。取り急ぎ御しらせ迄　匆々

補　浜野秀雄メモ　麻生鉱業株式会社用箋二枚　署名無きも「浜野」朱捺印あり

昭和廿六年六月七日

記

一、六月七日　阿部隆一氏来社

大東亜文庫、河村文庫関係残務完了報告あり、但大東亜文庫リストは同氏上京後送附越の豫定、

同氏六月八日単身上京、家族は夫人産後十月転居豫定

転居先

東京都豊島区雑司谷一丁目一番地　植松方

一、大東亜文庫図書は社長殿醵金を以て野見山氏により支那関係書を蒐集（後九大派の反対により中止）せるものにして旧斯道文庫土蔵内に保管しあるも野見山氏の管理に属す
一、河村文庫（含河村全集資料）も同じく土蔵内に保管しあるも右は河村家の管理下にあり
一、文庫跡住宅には笹月氏居住につき同所土蔵内保管の斯道文庫書架十二ケ、同書物箱二ケは今後同氏に管理方委嘱す、而して右管理上の世話は当事務課に於て見ることゝす
一、今後文庫跡建物（現在笹月氏に無料貸与）修理上の関係につきては便宜本社庶務課に連絡のこと　本六月七日吉鹿総務部長及庶務課福守氏と談合済
一、阿部氏残六月分給料、退職金、旅費市電回数二冊分は来る六月二十五日支払受のことゝす

以上

四　阿部隆一葉書　浜野秀雄・森口亀一郎宛　ペン書〔昭和二十六年〕七月三日　消印「7、5後0―5　芝」

（表）福岡県飯塚市立岩

麻生鉱業株式会社事務課
浜野秀雄　様
森口亀一郎様

横浜市港北区太尾四〇六
（大倉山文化科学研究所住宅）
七月三日　阿部隆一

（裏）

拝啓　梅雨の候にもかゝはらず、益々御清適の御事と慶賀し奉ります。先般は御多忙中にもかゝはらず、森口様にはわざ〳〵拙宅迄退職金等おとゞけ頂きました由で、恐縮致してをります。厚く御礼申し上げます。赴任早々の為め、何のかんのとあわたゞしく、さつぱり落ちつきませんで、何もでき兼ねてをりましたが、漸く色々なことがきまりましたから、これから書物のリスト大急ぎで清書してしまいたいととりかゝる所です。甚だ遅れ申しわけございません。今夏は夏休みでも来たばかりの小生は仕事をおしつけられ、留守役をおほせつかり、却て多忙となります。暑さの折柄くれ〴〵も御自愛の程祈念し奉ります。

取急ぎ御礼迄。　　敬具

五　阿部隆一書簡　吉鹿隆助宛　罫のみの原稿用箋二枚半　ペン書　昭和二十六年八月七日　消印不明　「受付、昭26、8、12麻生鉱業株式会社」のスタンプ捺印

（封筒表）福岡県飯塚市立岩
麻生鉱業株式会社総務部
吉鹿隆助様
侍史

（封筒裏）横浜市港北区太尾
大倉山文化科学研究所住宅
阿部隆一

八月六日

拝啓　その後は御無沙汰申し上げ失礼仕つてをります。ひどい暑さが続き、一雨欲しい所ですが晴天続き、都大路は塵つぽく、まるで砂漠の様です。当方夏休みに入り、ゆつくり休暇かと思ひましたら、全く豫想に反し、今夏は慶應の方は種々の催し、講習会が重なり、特に小生の関係の方では二ヶ月に亘る全国図書館長の講習会とかその他があり、加之小生の赴任が遅れた為め、用務山積、毎日目の廻る様な多忙で、却つて夏休みが終れば、一息ついてゆつくりとできさうな恰好で、今年は夏休みも何もあつたものではありません。昔は大学は休みは閑散としてゆつくりできたものですが、世間が世智辛くなつたせいか、本校のみならず、東京の大学は昨今は休みが却つて多忙といふ現象の様です。まだ何処へも出られません。併し幸に元気でやつてをりますから乍他事御放念賜はりたく存じます。ひどい暑さですが、拙宅は都塵を離れ、文字通りの山荘のものですから、帰宅すれば松風軒より吹きわたるといふ具合で、夜は殊更涼しく、夜深ければフクロ（ママ）がしきりになくといふ所です。さて、かねて印刷中の文庫貴重本の目録が近日中に刷り上るといふ通知を九大より受けました。先般社長様へ御挨拶に参上した際、文庫の旧理事、研究顧問、関係者の方々へは社長の名儀で九大に寄託した由の挨拶状を添へて、一部贈呈した方がよからうといふことで、貴殿宛連絡依頼してくれといふ御言葉でございましたから、御通知申し上げます。春日・楠本先生の如く、九大より直接御送付申し上げる方又福岡在住の方は直接笹月よりさし

上げることにし、その外は大体別紙の通りですからよろしく御取り計ひ賜はりたく御願申し上げます。九大からは印刷ができ上りましたら、廿部、会社の貴殿宛に御送付する様御願しておきました。此は大体企画室の管轄で浜野氏宛に御相談すべきことかとも存じますが、社長様が貴殿宛通知しておけといふことですから、その辺のことしかるべく浜野課長殿とも御話し合ひ賜はりたく存じます。よろしく御ふくみおき頂きたく存じます。贈呈の分は九部ですが、残りは適宜御保管頂きたく、なほ麻生塾の緒方理事長、奥園塾長へも一部づゝ贈呈の程御願致します。もし部数不足でしたら、笹月の方へ相当部数おいてある筈ですから、御申しこみ下さい。社長様へは九大から東京の御住所宛に数部お送りすることになつてをります。今度の目録は小生早々の間に執筆し且つ豫算の関係もあつて簡単で意に満ちませんが、将来本格的な解題作成の為の踏み石にはならうと存じます。先般去る七月卅日豫定より二週間ほど早く次男出生しました。母子とも元気な様ですから乍憚御放念賜はりたく存じます。九月末頃は家族の者が当地に移る様になるかと存じます。色々貴殿には公私ともに御世話様になり、是非家族引き上げの際には迎へに参り、ゆつくり御礼申し上げたいと豫定してをりましたが、此の分では時間と金の両方の面から、迎へに福岡迄参ることは不可能になるかと存じます。もしさうであれば甚だ失礼を重ねますが、御了承賜りたく存じます。なほ小生の家族の引き上げた後山室三良氏がお借りしたいといふ希望の件、しかるべくお取り計ひ賜はれば幸に存じます。乍末筆会社の皆様方、御奥様へもよろしく御鳳声の程御願申し上げます。酷暑御多用の折柄くれ〴〵も御自愛の程祈念し奉ります。取り急ぎ用件のみ。

敬具

八月七日　　阿部隆一

吉鹿隆助様

侍史

〔以下別紙、それぞれ住所も書き入れられているが、省略する〕

後藤文夫

加納久朗

生源寺順

蔵内数太

田中晃

◎高木市之助

小牧健夫

竹岡勝也
佐藤通次

高木・佐藤両氏の住所は追而調査の上おしらせします。多分笹月の方が知つてをること、存じますから、直接笹月の方より貴殿におしらせします。

六　阿部隆一書簡　福井昌保宛　便箋二枚　封筒欠　ペン書

余白に「〔昭和二十六年〕十月十三日阿部元一氏よりの来信」と鉛筆書（福井氏朱捺印あり）

拝啓　秋冷の候益々御清適の御事と慶賀し奉ります。その後はとんと御無沙汰申し上げ失礼仕つてをります。先般浜野氏よりうけたまはれば、今般事務課長に御栄進の御由にて御喜び申し上げます。拙宅家族の者去る廿四日福岡より当地に移転致しました。在福中は各別御世話頂き厚く御礼申し上げます。実は小生家族引きとりの際、もう一度御地に参上、ゆつくり名残りを惜しみ且つはもう少し残務につき彼れ此れ処理したいと思つてゐましたが、残念ながらその餘裕がなく、失礼しました。先般福岡出発の際、大東亜文庫並に河村文庫の書目作成の上御送りする様に申しながら、遅延致し申しわけございません。家族移転の際、小生御地に参上のついでに詳しく説明の上お渡ししたいと思つてゐましたが、前記の如く不可能になりましたから、「大東亜文庫」のリスト同封仕ります。（カードは小生の手もとにございます。此は適当の折御送りしませう）

笹月の方よりお聞きしましたが、いよ〳〵地行の土地も今秋売却に決定した由で、さうなればあの書庫の中にある書棚その他も適宜移転の要あるものと思はれます。それにつきましては、大体野見山氏並に笹月氏にお話ししてありますから、しかるべく御相談の上おとり計ひ願上げます。書庫に今なほおいてある物の主要なるものは、㈠書棚、㈡大東亜文庫、㈢その他書籍少々。㈠の書棚は飯塚に運ぶとし、㈡の大東亜文庫はあのコレクションの蒐書目的から見て野見山氏に保管その他は一任されるのが至当ではないかと思ひます。同封の大東亜文庫のリストは野見山氏へも御送付申し上げました。河村文庫並に河村全集資料は野見山笹月両氏より地行の土地が売れるなれば、保管に困難なのと、今後の全集の編纂は主として小生に分担して欲しいといふ見地から、小生に保管の責任を持つてくれといふことで、河村の義兄もその様な意見でありましたので、拙宅の移

転の荷物と共に、全部当方でひきとり、目下、大倉山の研究所の書庫に保管することに致しましたから、御了承願上げます。今後斯道文庫の再開がありましたら、再び御送りすることにし、それ迄小生が保管することに致します。従つて河村文庫・河村全集資料のカード類一切は小生の手もとに今来てをります。大体以上の通りであの書庫内にある細々したものについては、出発の際笹月兄に話してありますから、野見山・笹月両氏としかるべく御相談頂ければ大体わかることゝ存じます。なほ不明の点がございましたら、小生宛御連絡頂ければ、できるだけのことは致します。書庫内の書棚は倉の前の事務室を取り外せば外に出ます。事務室の天上(ママ)のハリがジヤマをして出ない様です。最近御上京のことはございませんか。拙宅は京浜内には珍らしい田舎で山の林の中のもの淋しい一軒家で、横浜方面を瞰下し窓に富士を眺め、都塵を一洗するに適した草屋ですから、御上京の際は御来駕賜はりたく御待ち申し上げます。乍末事、吉鹿氏、浜野氏、森口氏を始め事務課の皆様方にくれ〴〵もよろしく、御鳳声の程御願申し上げます。御多用の折柄くれ〴〵も御自愛の程祈念し奉ります。

取り急ぎ用件のみ

敬具

十月十三日夜　　阿部隆一

福井昌保様

追伸、麻生文庫貴重書目録、もう刷り上つた筈ですが九大より会社の方へとゞきましたでせうか。小生より部数その他九大の方に依頼してあるのですが。

七　阿部隆一葉書　福井昌保宛　ペン書　昭和二十六年十月十七日　消印「26、10、17後0―6　芝」

（表）福岡県飯塚市立岩

麻生鉱業株式会社企画室事務課

福井昌保様

横浜市港北区太尾

大倉山文化科学研究所気付

阿部隆一

十月十七日

（裏）

拝啓　御多忙中にも拘はらず御元気のこと、存じます。先般御送りしました大東亜文庫書目は御受納のこと、存じます。「麻生文庫貴重書目録」は刷り上つた筈なのに、小生の分を九大より送つて来ませんので、催促した所、文学部長より会社宛に送つてあるから、会社より送るだらうといふ様な返事が参りましたが、貴社へは既にとゞいてをりませうか。実はあの目録は三百部きり印刷せぬといふのを、小生が私有の紙を五連程寄附して、その代り二百部くれるといふことで五百部刷つたので、その二百部を小生に九〇、笹月宛に七〇、会社に二〇、社長（東京宛）に五、春日先生五、野見山氏五と夫々発送してくれと依頼しておいたのを間違ひた（ママ）様です。大体旧文庫の役員には社長名儀で手紙を添へて発送（名簿は吉鹿氏に知らせてあります）、笹月の七〇部は在福の人々に少々配り残りは将来の為に保存、文庫に縁のあつた方々その他の方々へは小生から全部配布するといふ段取りの予定でした。大体、九大より間違なく二百部とゞいてをりませうか。もしとゞいてをりますならば、御多用中甚だ迷惑とは存じますが、以上の次第ですから、小生に九〇部早速御送り頂けませんでせうか。なほ笹月の方へ七〇部、（春日先生、野見山氏の分を五部共に一緒で結構計八五部）を好便に託して文庫の方へおとゞけ頂けば幸です。もし九大よりまだ二百部とゞけてをらぬ様でしたら至急九大の方へ督促しますから、おしらせ頂きたく存じます。もし会社の方で廿部で不足の様でしたら、笹月の分より少しもらつて下さい。九大の方へ話が徹底してゐなかつた為か、無用の御厄介をおかけしますがよろしく御取り計ひ頂きたく存じます。くれ〴〵も御自愛専一の程祈念し奉ります。

不尽

御依頼迄　　匆々

第二部　慶應義塾寄贈寄託の部

一　阿部隆一書簡　斎藤正宛　慶應義塾印刷封筒　慶應義塾用箋七枚　ペン書　昭和三十二年十月十六日　消印「32、10、17後(?)6—12　高輪」

（封筒表）福岡県飯塚市立岩

麻生産業株式会社企画室

斎藤正様

（御依頼）

（封筒裏）慶應義塾住所記名印刷に「十月十六日」「阿部隆一」「自宅横浜市港北区太尾四〇六」と書入

拝啓　益々御健祥の段賀し上げます。唐突に書面を呈します失礼の段御寛恕の程願上げます。或は小生御社に御厄介になつてゐました頃、貴面を得たかもしれませんが、――小生はすぐ人様の御名前と御顔を忘れますので。

社長さん或は吉鹿氏より既にお聞き及びの事と存じますが、今九大寄託中の斯道文庫蔵書を今度当慶應大学が寄贈を頂き、文庫を再興することになりました。つきましては、今後何かと御世話様になること、存じますが、よろしく願上げます。慶應と致しましては、従来の縁故上、小生が直接その責任に当る模様でございます。

今度熊本県人吉の方へ小生調査の為出張致すことになりましたので、丁度好便と帰途御地に立ちよつて、来年の計画と打ち合せを命ぜられました。又社長さんからも、貴殿とよく打ち合せる様にとの御言葉でございました。御多忙中甚だ恐縮ですが、色々御依頼致したいことございますので左に記します。その前に今回の小生の日程を記します。

十月廿二日特急あさかぜ出発、博多ですぐ急行桜島に乗りかへて人吉に直行廿六日迄人吉、廿六日午后人吉発、同日急行霧島で博多着一九時三十六分。卅日迄福岡滞在、同日夕特急で帰京の予定です。

今度の御地での主な用件は、来年の文庫蔵書輸送につきましての、費用の概算見積りの作成、その手配等を考へることです。九大への正式な申し入れは、来春吉鹿氏帰国の上でなしますが、大学の予算の編成上、特に新規臨事の予算は今年中に資料を提出せねばなりませんので、大体の見つもりの資料を得たく、今回小生が御地に伺ふ次第です。たゞ九大へは都合上気づかれぬ様せねばなりません。此の点社長さんが特に懸念してをられます。先づ御依頼したいことは、

㈠輸送の手配と総経費等は小生では見当致しかねます。それで、どうせ「日通」の方へ依頼しますから、日通のその方のヴエテランに小生に同道して頂き、九大へ参り、一応見て見積りを依頼したいのです。九大へは小生の知人で本好きなのでつれて来たと言つてをきます。御社では日通とも取引上御関係が深いで

せうから、日通の福岡支店の方のどなたか、特に口の堅い信頼できる人を指定しておいて頂きたいと思ひます。当方とは遠くはなれてをりますし、なるべく九大の迷惑にはならぬ様にすばやく、輸送を致さねばなりませんから、人夫その他一切日通に委せねばならぬと思ひます。計画の立て方経費の計算等概略にせよ、相当面倒だと思ひます。でき得れば小生御地滞在中に全てきめて帰京したいと存じ、なるべく早く日通の方と打ち合せの上、九大に参りたいと思ひます。廿七日は日曜で、どこもお休みですから、廿八日（月曜）午前に御指定頂いた日通の方と、御社の福岡支店ででもおめにかゝつた上で、九大に同道願ひれ(ママ)ば小生としては甚だ好都合です。なほ此は御多忙中恐縮ですが、貴殿にもその際おめにかゝれゝば至幸この上ありません。委細の内容につきましては御面晤の際に譲りたいと存じます。

㈡書棚の件。文庫の書架、これは当時既に不足してをり非常に無理な並べ方をしてをり、今度相当数新に作らねばならぬと思つてゐます。当方としては、本の到着前に必要数の書架を用意してをかねばなりませんので、その予定を立てたいと思ふのです。御承知の通り、九大にあづけてある書架はすぐわかりますから問題ございません。九大にあづけないで残した書架は(I)はあの地行の書庫にそのまゝ置き、数量は明細を記したものを企画室の方へお渡ししてあります。但し、あの地行の土地を売却した際、書庫内の物品をどうどこに移したかは小生は既に上京後のことですから、全然知りません。(II)、社長さんの御本家に置いてあつた本の書架は、本を九大へ移してから、一部は麻生塾へどうせあいてゐるからお使ひなさいと渡した記憶があります。全部はどうしたかは今小生の記憶がぼんやりとしてゐます。社長さんから、書架もあいてゐるのは寄贈して下さるといふ御話ですから、書架がどの位今残つてゐるか一応お調べ頂きたいと思ひます。

㈢九大への寄託契約書の写しを一通、全文写しが御面倒でしたら、寄託の日付け（契約が実効を生ずるといふ附属文書の日附とも）だけでも結構ですが、見せて頂きたいと存じます。

さし当つて、御手配を煩はしたいと点(ママ)は以上です。その他細い色々な点がございますが、此等は全て御拝眉の際に譲ることに致します。

元来は小生飯塚の御社の方へ先に参つて打ち合せをなすべきが至当でございますが、何分旅中日程がつまり、特にできるだけ廿八日に九大へ参り例の見積のことを早くすませ、卅日の帰京

の際まで日通に計算を願ひたいと思ひますので、でき得れば廿八日午前中に福岡に於て貴殿におめにかゝれゝばと思ひます。お呼び立て致し恐縮ですが、御諒承下さいませ。

或は廿八日には日通の方の人の手配のみをしておいて頂き、廿八日の夕刻とまりがけかか(ママ)廿九日に御社に小生が参り、打ち合せを行つても結構です。できるだけ飯塚の方へも小生参上したいとは思つてゐますから。日程の都合つけば、（九大で研究発表をしたりその他のこともありますので、今、御地に参らねば予定がつきかねますので）廿九日は御社と麻生塾の方へよりたいとは予定してをります。御社の方々に久しぶりで敬意を表したいと思つてゐますので。福岡の小生の宿は大体左の所にしてをきます。

福岡市鳥飼本町三丁目一三二　斯道寮　笹月　電④４６５９

笹月の方に、ハガキなり、電話なりで御連絡下されば幸です。廿六日の夜はとりあへず笹月の方へ参りますから。或は廿八日の朝にでもなほ小生、御社の福岡支店に電話します。

御多忙中をも顧みず甚だ勝手なことのみ御願致しましたが、何とぞよろしく願上げます。時節柄御自愛専一の程祈り上げます。

委細は御拝眉の折に。

敬具

十月十六日　　阿部隆一

斉藤正様

侍史

追伸　おついでの折、御社の柳さん、福井さん、麻生塾の奥園先生に小生西下する旨のみお伝へ置き頂ければ幸甚です。皆様にくれ〴〵もよろしく御鳳声下さい。

二　阿部隆一葉書　斎藤正宛　ペン書　昭和三十二年十一月二日　消印「32、11、2後6―12　高輪」

（表）福岡県飯塚市柏森

麻生産業株式会社

企画室

斎藤正様

横浜市港北区太尾四〇六

阿部隆一

十一月二日

（裏）

拝啓　今回は御多忙中の処を、わざ〳〵御出福頂きまして恐縮でございました。おかげ様で㊟の方から全部輸送の見積を作つて頂き、その他のことも予定の如くおかげ様ではかどり、帰京しました。委細の話は柳様よりお聞きとり頂きたく省略させて頂きます。昨日社長さんにおめにかゝり、事情報告致しておきました。なほ御多忙中御手数を煩はし恐縮ですが、あの際お願しました書架のことのみ、御一報頂ければ幸甚でございます。今後何かと御世話にあづかることゝ存じますが、よろしく願上げます。

時節柄御自愛専一の程祈り上げます。

先づは乍略儀御礼迄。　　敬具

三　斎藤正書簡（控）　阿部隆一宛　麻生産業株式会社便箋（複写）　手書き　昭和三十二年十一月五日

昭和三十二年十一月五日

企画室事務課長
斎藤正

阿部隆一様

拝啓

貴翰難有拝誦致しました

先達遙々九州まで御光来頂きましたのに何の御構ひも致さず甚だ失礼申し上げました　御用件もどうやら無滞御済ませになりました由安心仕りました

御依頼頂きました書架調査の件は別紙〔後掲横組参照〕の通りで御座いますが本家預けのうち約二箇（薪積みの蔭にて一部調査困難なものも有りました）を簡単な修理（弊社営繕係に頼めます）すれば全部使えますが、麻生塾預けの分は一部二段に分割したものもあり又何れも塾預けの図書保管のため使用致して居りますので塾長へは返却の意思表示は致して居りません

結局御送り出来ますのは本家預けの分拾箇かと存じますが御一報賜はれば御指定の頃までに福岡日通支店までも御送り致します

今後共何彼と御世話様に相成ること、存じますが何卒宜敷く御願ひ申し上げます　尚私方へも御役に立つことが御座いましたら何卒御遠慮無く御申し付け下さいませ

先づは延引致し乍恐縮御依頼の件御一報申し上げます

敬具

四　阿部隆一葉書　斎藤正宛　ペン書　昭和三十二年十一月九日　消印「32、11、11後0―6　高輪」

（表）福岡県飯塚市柏の森
麻生産業株式会社
企画室事務課
斎藤正様

横浜市港北区太尾四〇六
阿部隆一

十一月九日

（裏）
拝復　御多忙中の処を、御依頼の書架の件につき、詳細な御報告を頂き、厚く御礼申し上げます。委細について、おかげ様で判明致しました。
いづれ明年、輸送の際に、どういふ風に送るかその他がきまるわけですから、その頃小生前もつて御通知するなり、御地に参上することにならうと思ひますから、委細はその節に譲ることに致します。それまではそのまゝにしておいて下さいませ。麻生塾にある書架は勿論塾の方で使用してゐるのですから、東京に送ることは不要です。
また色々なこと御願致すことにならうと存じますが、よろしく願上げます。乍末筆柳さんを始め皆様方によろしく。時節柄御自愛の程願上げます。

先づは御礼迄

敬具

五　阿部隆一葉書　柳俊二宛　ペン書　昭和三十三年一月三日　消印「33、1、3後0―6　神奈川」

（表）福岡県飯塚市柏の森
麻生産業
柳俊二様

横浜市港北区太尾四〇六

一月三日　　阿部隆一

（裏）

御一統様よきお正月をお迎への御事と賀し上げます。廿九日附御手紙拝見。御多忙中の処万事御手配を煩はし恐縮に存じます。十七日相談会の件承知致しました。御指示の通りに参上致します。今の所、小生の予定としては、十四日特急で出発（特急券がとれゝば）、十五日昼福岡着、十六日にでも前以て色々と御相談したいと思ひます。御都合の程と場所（飯塚福岡でも結構）とを、笹月の方に御電話ででも知らせておいて頂ければ、御指示の通りに致します。九大との前に打ち合せたいと思ひます。出発の都合が変更になればおしらせ致します。大体廿日か廿一日には御地を出発の心算にしてをります。福岡県庁への財団精算届にひよつとしたら、寄附先の慶應の寄贈受託の書類等入用かもしれませんから、小生在福中に、その方面のことも家永（ママ）氏その他と相談しておいた方がよろしきかと思ひますが、如何。とも角万事は御拝眉の際に。御大事に。　　敬具

吉鹿氏も御帰国でせう。よろしく。

＊表に赤鉛筆（柳氏筆カ）で「十六日午前中福岡支店で阿部氏面接」「十七日正午九大文学部長室」と書入

六　阿部隆一葉書　斎藤正宛　ペン書　昭和三十三年四月十九日　消印「33、4、21前3—12　神奈川」

（表）福岡県飯塚市柏森
麻生産業株式会社事務課
斎藤正様

横浜市港北区太尾四〇六
阿部隆一

四月十九日

（裏）

拝啓　今回貴地滞在中は公私共になみ〳〵ならぬ御援助を賜はり、おかげ様で任務を完了できましたことを、厚く御礼申し上げます。十三日帰宅致しましたが、十四日朝には貨車が到着し

たといふしらせを受け、直に受け入れが始まり、目下解梱書架に配列中で、息つくいとまもない有様です。荷は何等の損傷もなく無事安着しましたから、何とぞ御休神の程願上げます。四月中には、書架に配列し終り、五月初旬には麻生氏を主賓としてパーテイを開き、関係者一同に披露の予定でをります。いづれ、文庫の件は当方で確定的なことがきまりましたら、又おしらせ致します。今後ともよろしく願上げます。早速お礼申すべき処、あわたゞしきまゝにとりまぎれ失礼しました。貴課の皆様にくれ〴〵もよろしく。御自愛祈り上げます。乍略儀御礼迄。

敬具

〔付記〕本資料の公表に当って、便宜を御図り下さいました阿部隆一博士の嗣子宇豆夫氏に感謝の意を表します。

文庫保管状況　　昭32、10、29現在

１、九大寄託図書　16,649（寄託図書目録による）……冊数換算約7万冊
　　斯道文庫　10,382（　〃　）
　　安井文庫　1,390（　〃　）　斯道文庫所有
　　浜野文庫　4,877（　〃　）麻生太賀吉所有
２、麻生塾寄託図書
　　旧笹月文庫
３、その他
　　大東亜文庫　　野見山温保管
　　（阿部隆一氏の意見によれば、冊数も大したことはなく、野見山氏との因縁浅からぬものあり、同氏に寄贈され度しとのこと。）
　　河村文庫　　阿部氏保管
　　（阿部氏の意見によれば、河村幹雄先生の遺児河村英雄氏に所有権あるも、師の遺志を継ぎ、今日まで阿部氏が所蔵利用して来たので、今後も自分に一任あり度いとのこと。）

斯道文庫清算状況　　昭32、10、29

一、解散決議
　①理事会決議　昭21、5、11　②解散期日　昭21、5、31
　③清算人　麻生太賀吉、野田勢次郎
二、解散の申請（福岡県知事宛）
　①申請日　昭21、5、27　②許可日　昭21、5、29
三、解散登記　昭21、5、31
四、清算人届出　昭21、5、31
五、清算報告（財団法人斯道文庫財産清算報告書）
　①届出　昭21、7、31（県庁書庫火災により焼失）
　②理事への決算報告　昭21、8、9
六、その他
　斯道文庫解散後の残餘普通財産中の図書（21、5、11現在33,905冊）は「日本文化ノ進歩発展ニ資スル機関ヲ見出スマデハ、麻生産業（原文では麻生鉱業）株式会社麻生塾附属図書館ニ於テ責任ヲ以テ保管スルコト」となって居るので、現在九大に寄託中の同図書を適当な機関へ寄贈等理事会決議の主旨に副う処分を行った場合は、清算人麻生太賀吉の名に於て、同図書保管監督を委嘱された理事文庫長、清算人野田勢次郎氏に処分の概要を報告し、同時に県知事宛同報告書を提出する必要あり。
（註）県庁内における斯道文庫解散顚末熟知者は家長氏

阿部隆一氏との寄贈、輸送打合せ概要：―32、10、28
◎九大寄託図書を慶大に寄贈するについてはその大義名分をたてる必要あるため東洋文化研究所を慶大内に設立して斯道文庫及び麻生文庫をその文献の一部とし、これを麻生氏斯道文庫と名命（ママ）する案あり。
◎九大図書搬出に際し、図書現物と目録との照合については麻生太賀吉氏より阿部隆一氏に一任する旨を九大側に通報ありたし。
◎照合費用（帰福中の慶大生をアルバイトさせる予定）及び搬出、輸送費用は慶大持ち―阿部氏申出で。
◎搬出期間はなるべく春期休暇中に行い度い。
◎書棚は九大寄託中の21ヶのほかに、麻生塾預け分12ヶ（内3ヶ破損）のうち現在使用なき分及び本家預ヶ分につき箇数、縦横寸法及び段数を阿部氏に通知すること。
◎書棚と一緒に本家預け斯道文庫関係書類（書翰類）を一纏めにして送付され度い。

＊斎藤正氏によると思われるメモ　麻生産業株式会社便箋４枚　ペン書